法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-08

『言語と文化』創刊号発行にあたって

前川, 裕 / Maekawa, Yutaka

(出版者 / Publisher)
法政大学言語・文化センター
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
言語と文化 / 言語と文化
(巻 / Volume)
創刊号
(開始ページ / Start Page)
i
(終了ページ / End Page)
ii
(発行年 / Year)
2004-02-20
(URL)
https://doi.org/10.15002/00002775

Hosei University Repository

《巻頭言》

『言語と文化』創刊号発行にあたって

言語・文化センター長　前　川　　裕

法政大学の改組・転換により，第一教養部は，その長い歴史に終止符を打ち，構成メンバーはそれぞれ各学部に分属した。そして，教育機能を持たない，研究上の組織として設立されたのが，言語・文化センターである。もちろん，その設立趣旨には，各所属教員の物心両面での研究条件の維持も含まれてはいるが，もう一つの大きな目標は，専門の研究領域に基づいた人的交流を促進し，研究会活動などを積極的に援助することである。

その研究活動の成果を発表する場として，発行されるのが，研究機関誌『言語と文化』である。今回はその記念すべき創刊号であるが，寄稿者の研究領域は，多岐に渡っている。あえてオーソドックスな言い方で表現するなら，外国文学系，比較文学系，日本文学系，言語系，人文系，社会系，などと分類することも可能だが，現実には，「文化研究」という言葉に象徴されるような昨今のアカデミズムの世界を反映して，一研究領域ではとうてい包括できないような複数の研究領域にまたがる論考も見られる。おそらく，このような論考は，今後発行を重ねるたびに，ますます増加していくことであろう。

旧第一教養部では，分属の前年度でさえも，70名を越える大所帯の構成メンバーが在籍し，それぞれが独自の研究領域を持って，旧『教養部紀要』に寄稿していたわけだから，その多様性は他を瞠目させるものがあった。しかし，一方では，掲載される研究業績の相互関連性という視点からは，いささか混沌の度合いがすぎるという印象を免れなかったことも確かだろう。

そういう意味では，この研究機関誌は，旧『教養部紀要』の単純な延長線上にあるものではない。むしろ，分属メンバーとの研究上のつながりを維持しながらも，一定水準の学問的視座を共有する研究仲間による，あらたな研究機関誌の創刊と考えていただきたい。むろん，創刊当初という事情もあって，この

Hosei University Repository

雑誌の運営・編集方針については，いまだに未確定の部分も多く，なお，所員間の議論が必要であるが，そういう議論を積み重ねることによって，将来的には，新しい時代を先取りした，自由で闊達な，しかも専門性という視座からも質の高い論文集の発行を目指したいと考えている。そのために，関係者の方々の積極的な寄稿が重要なのは言うまでもないが，特に若い所員には，言語・文化センターの運営同様，この研究機関誌の編集にも関与して，その方向性を決定していただきたいと切に願うものである。